



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第 27 号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ：「（永遠の）いのちを与える」エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く：進化論の誤り23「間違っって科学と呼ばれる反対論」
- ◎聖書と日本「笛吹けど踊らず」
- ◎イエス・キリストに出会う「ザアカイ 嫌われ者の取税人」
- ◎キリストを信じた体験談：「病気を治す神様」知恵
- ◎聖書を信じた有名人のことば：隅谷三喜男
- ◎聖書贈呈

＜聖書からのメッセージ＞

「（永遠の）いのちを与える」by エレミヤ

本日はキリストを信じるものには「（永遠の）いのちが与えられる」ということを見ていきたいと思ひます。

“ヨハネ5:21 父が死人を生かし、いのちをお与えになるように、子もまた、与えたいと思う者にいのちを与えます。”

ここでキリストは自分が“与えたいと思う者に（永遠の）いのちを与える”、ということをお話しています。子とは、聖書独特の表現で、神の子であるキリストをさします。与えたいと思う者に（永遠の）いのちを与えるとは微妙な表現であり、裏返すとキリストがそう思わないために、死後永遠の命を得られない人、逆に永遠の滅びとか火の池に入ってしまう人もいように思ひます。他でもない永遠に関する事なので、私たち自身には、是非このような事の起きないように、心し

て歩みたいと願うのです。

＜人生の備え＞

日本人は民族として考えるとどうなのでしょう。正直、日本人は用意周到な民族であり、国民であると思わされることが多いです。子供が生まれたらすぐに競争社会に巻き込まれる、それに打ち勝つにはなんと言っても学歴ということで、もう小学生、いや幼稚園から有名校に入れさせる親は多いです。大学も早くから塾へ行かせて一流の学校へ、そして企業は一流企業へ入らせるべく努力、そんな風にして、何でも早くから子供に用意周到用意させ、結果、競争に勝ち、勝ち組に入る、そんな用意周到な親も多いのです。何でも用意のよい国民なのです。それで、何でも用意、備え、という習慣からか今では終活なんていうことばもあります。終活の意味合いはまだ、死なないけど、いざ死んだ後、周りが困らな

「(永遠の)いのちを与える」エレミヤ

いように、遺産や、お墓、遺言、さらに自分の葬儀の準備まで、前もって用意する、ということのようです。何とも用意周到というか、至れり尽くせり、というか、手回しのよい話です。

しかし、聖書を読んでいる私としては、このような用意周到な人に対して余計なお世話ではあるのですが、一言申し上げたいことがあるのです。それは、もっとも大事なこと、重要なこと、神への備えに対して備えができていない、ということです。聖書にもそのような人のことが書いてあります。人生の勝ち組だが、しかし、神の前には備えができていない人のことです。以下を見てください。

ルカ12:15 そして人々に言われた。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」

12:16 それから人々にたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作であった。」

12:17 そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』

12:18 そして言った。『どうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。』

12:19 そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。」』

12:20 しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』

12:21 自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

この男は人生の勝ち組であり、ついには倉まで建て、成功者になったのですが、しかし、彼のたましいはその夜取り去られてしまうのです。しかし、彼は神の前には何の備えもなく、この世の富には富んでいても、神の前には何の富も備えもしていなかったのです。

そういう意味ではこの人は真の意味では用意周到でも知恵があるのでもなく、先を見越した歩みをしていただけではありません。何故なら、私たちの人生は非常に短いものであり、死後の世界、時代のほうがずっと長いからです。終活ということばを使うなら終活に失敗したタイプといえるのでしょうか。

<もっとも大事なことは誰も知らない>

私たちの回りにはあらゆる種類の学校があり、専門家があり、アドバイザーがいます。有名な学校への合格を請け負う塾があり、医者になるための学校があり、法律に関しては、弁護士があり、結婚に関してはカウンセラーがいます。指の先についている小さな爪をケアしてくれるネイリストまでいるのです。そのようにどんな小さなことにもカウンセラーがあり、専門家がいるのですが、不思議にも非常に大事なこと永遠に関わる重要なことに関しては、正しい指針を示してくれる人はあまりいないようです。

そもそも人間とはどこから来たのでしょうか？ どうも進化論は怪しい理論の様ですが、それでは改めて人はどこから来てどこへ行くのでしょうか？ 神は存在しているのでしょうか？ 死後の世界はどうなっているのでしょうか？ よくいう天国とか地獄とは存在しているのでしょうか？ もし、存在しているのなら、どうしたら天国へ入れるのでしょうか？ 私たちはこのような質問のどれにも的確な答えを持っていません。そうです、私たちは大事なことは実は知らないのです。

「(永遠の)いのちを与える」エレミヤ

<聖書は答えを語る>

これらの根源的な質問に対して、的確な答えを与える書を神は用意しておられ、それはよく知られているように聖書と呼ばれる本です。個人的なことですが、私はこの聖書を何十回も繰り返して読んでいます。その上で、この書の中に私たちの歩みに関する大事な答え、的確な答えがあることを知っているのです、おせっかいながら、このようにお知らせをしているのです。

<死後ある人は永遠のいのちへある人は永遠の滅び、忌みへ>

聖書は人の死後の世界に関してたとえば、以下の様に描写します。

ダニエル 12:2 地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。

死んで土葬されたり、火葬されたりした人々も終わりの日にみな目をさまします。誰も彼もです。しかし、その後の運命は二分され、ある人は永遠のいのちを受け、誉れを受けます。しかし、ある人はそしられたり、永遠の忌みまた、滅びに入ります。よくいわれる死後は無になる、などということは聖書は語っていないのです。

このように聖書は、死後私たちに2つの区分があることを明確に語りますので、私たちはこのためにこそ、用意周到な準備をすべき、だと思います。この準備に比べれば、生前お墓を立てるとか遺産相続の用意だとか、遺言を書くなどは、それほど、重要なことではありません。

<キリストを信じるものは永遠のいのちを持つ>

永遠のいのちを受ける、ということも私たちが素直に耳を傾けるなら、それはそれほど、

難しいことはありません。神は私たちが憎んで、地獄へ入れたいと思っているのではなく、逆に何とか滅びに入らず、いのちに入るように用意周到な準備と至れり尽くせりの備えをしておられるからです。以下を見てください。

ヨハネ 3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ここに書いてあるように、「御子(キリスト)を信じる者」は「ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つ」のです。単純明快、そして簡単な方法です。キリストを信じるものは永遠のいのちを持つ、そのような方法を神は備え、そして、その簡単な方法、神の手段を2000年以上も前から、神は知らせ、伝えているのです。しかし、面白いもので、簡単でやさしい、至れり尽くせりの方法を神が用意したからといって、人がそれを歓迎して受け入れるか、というとそうでもないのです。事実イエスが来られた2000年前の当時のユダヤの人々もそうでした。このような神の申し出、神の遣わされたキリストを喜んで受け入れそうなものですが、実際は、彼らはキリストを拒否し、追い出し、最後には都の外で十字架刑に処し、いのちを奪ったのです。今、この時代も神の申し出、永遠の命への申し出は変わりません。是非このことを考慮し、人生においてももっとも大事な用意、



備えを行いましょう。

愚かな金持ち

進化論の誤り23: 間違って科学と呼ばれる反対論

神は聖書の中で、明白に神が人を創造されたことを語ります。しかし、19世紀にダーウィンによって提唱された進化論は、人は猿から進化したものであり、偶然に作られたものであることを語ります。そのように語る進化論は果たして正しいのでしょうか？そのことをこの連載では見ていきます。

1 テモテ6:20 テモテよ。ゆだねられたものを守りなさい。そして、俗悪なむだ話、また、まちがって「靈知」（科学：KJV訳）と呼ばれる反対論を避けなさい。

今までの連載で見てきましたように、19世紀にダーウィンによって提唱された進化論は、一つの考え方、試論としてはありえるとしてもしかし、実験や、歴史、他の事実と照らし合わせて考えるなら、とても正しい理論とは思えません。正しく人間や、動物、生物の成り立ちを説明する理論というより、誤りや矛盾の多い考えと思わざるを得ません。

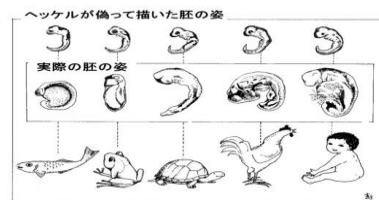
これは、宇宙の絶対的な真理などではなく、とりあえず、提唱してみたけど100年ほどの年月を経て、矛盾や誤りが多数噴出している理論なのです。正確にいうなら、新しい発見や発掘があるたびに矛盾が露呈するあやうい、というより、崩壊寸前の架空の理論に過ぎないことがわかってきたのです。

何でこのように矛盾した教えが今でもみなに受入れられているのか、というと「進化論は科学的な教え」ということになっているからです。逆に神が人間を創造した、動物も植物も創造したとの聖書の教えは、古い宗教的な考え、迷信だぐらいに思われているようです。

しかし、本当にそうなののでしょうか？ そんなに科学は信頼でき、また科学的といわれればどんな理論でも吟味も検証もなく受け入れてよいものなののでしょうか？ 実は聖書はその日、科学が聖書や神の教えに対して反対論となる日を予想したかの様に上記の様に「まちがって科学と呼ばれる反対論」につい

て語ります。「まちがって科学と呼ばれる」、とは意味深い表現です。驚くべきことですが、聖書は2000年もの昔から科学と呼ばれる教えの本質を見抜き、そう呼びます。言わんとすることは、科学的、論理的、厳密に調査済み、誰が見ても間違いのない真理などといわれるが、実態はそうではない、逆に科学の名をかたって恣意的な意見や、理論がまかりとおる日を予想してそう語られたのです。そうです、無知な民衆や大衆を、一方的に洗脳するために科学の名前が多用される、このような日を見越したかの様に、聖書は、「まちがって科学と呼ばれる反対論」について語ったのです。

科学の名で嘘がまかり通ることは多いです。たとえば、日本でも御用学者ということばがあり、政府や企業の要請や、希望に基づき、民衆に「科学的な説明」をします。例の原発事故の後、政府や東電の意向や利益に沿った、原子力の科学者たちが「科学的理論」を語り、原発は危険でないことを強調したのです。しかし、彼らが科学の名で自分に都合のよい結論を出していることは誰の眼にも明らかです。そして聖書の明確な教え、神が人間を創造した、動物をも創造した、との教えに反対する教え、進化論はまさに科学の名前で、反対をしているわけです。しかし、その実態は、今までの連載で見てきたように、あらゆるゴリ押しや、証拠の捏造（ピルトダウン人の化石の捏造）、図の捏造（ヘッケルの図の捏造）、証拠の決定的な不足（人間と猿との中間種は一つ発見されていない）、など「正しい証拠に基づいた科学的理論」などとは程遠い実態なのです。一以上一



ヘッケルの描いた偽りの胚の図
(上段がヘッケルの胚の図、2段目が実際の胚の図)

聖書と日本「笛吹けども踊らず」

聖書は日本人には馴染みがないのですが、実は聖書の世界と日本は深くかかわっているのです。「笛吹けども踊らず」という言葉があります。あれこれ手を尽くして準備してもそれに応じようとする人がいない、という意味です。この言葉は以下の新約聖書のマタイ福音書11章に基づいています。

マタイ11：16～17

この時代は何にたとえたらよいでしょう。市場にすわっている子どもたちのようです。彼らは、ほかの子供たちに呼びかけて、こう言うのです。

「笛を吹いてやっても、君たちは踊らなかつた。弔いの歌を歌ってやっても、悲しまなかつた。」

この箇所は、イエスが群衆に向かって話されているところの一部分です。イエスは救い主として人々を滅びから救い天国への道に導くためイスラエルに来られました。イエスは、神に逆らう罪の生活から悔い改めて、神の子のイエスに従うなら罪から解放され天の御国に入れる、と福音を告げられました。そして苦しむ多くの人々を憐れんで、病を癒し、神の力により多くの奇跡を行いました。しかし、当時のイスラエルの指導者たちはイエスを受け入れず、多くの町の人々も、イエスが神の力で奇跡を行っているのを見たにも関わらずイエスを信じませんでした。マタイ11章19節では「人の子が来て、食べたり飲んだりしていると、『あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み、取税人や罪びとの仲間だ』と言います。」とあります。人々は、あれこれ悪口をいいイエスを全く信じなかつたのです。イエスは、市場で、懸命に誘ったのに遊びに応じてくれない友達に呼びかけている子供たちの姿を見たのでしょうか。そしてイエスを受け入れない時代の例えとして語られたのです。イエスは「笛吹けども踊らず」と、頑固でイエスを受け入れない人々に対して悲しまれ、嘆かれました。

そのあとイエスはマタイ11章20節で「それから、イエスは、数々の力あるわざの行われた町々が悔い改めなかつたので、責め始められた。」とあります。そこではイエスを受け入れなかつた実際の町々の名前がいくつも出てきます。カナペウムという町についてイエスは次のように語られました。

マタイ11：23～24「カナペウム。どうしておまえが天にあげられることがありえよう。ハデスに落とされるのだ。おまえの中でなされた力あるわざが、もしもソドムでなされたのだったら、ソドムはきょうまで残っていたことだろう。しかし、そのソドムの地のほうが、お前たちに言うが、さばきに日には、まだおまえよりは罰が軽いのだ。」

ハデスとは地獄のことです。さばきの日には、「最後の審判」のことです。そしてソドムという町は、旧約聖書にでてくる同性愛の町で、神の怒りにより硫黄と火で滅びました。ソドムの町の跡が死海であるとも言われています。イエスは、最後の審判の日には、滅ばされたソドムの町のほうがイエスの奇跡を見て信じなかつたカナペウムという町より罰が軽いといわれたのです。

イエスは愛の方であり憐れみ深い方です。今も病や悩み苦難の中でイエスに助けを求め人を見捨てることは決してありません。しかしイエスは受け入れなかつた町々に対しては、このように厳しいことを語られました。御子イエスの目から見た今はどのような時代なのでしょう？「笛吹けども踊らず」とイエスに嘆かれないようにしたいものです。



笛吹けども踊らず

イエス・キリストに出会う 「ザアカイ 嫌われ者の取税人」

イエス・キリストは2000年ほど前、イスラエルに救い主として来られました。その時代の人々はイエスと会い、主イエスがどんな方であるのかを自分の目で確かめることができたのです。今は当時の人々のようにできません。でも聖書にはイエスがどのような方であるか記されています。私たちは、聖書を通してイエス・キリストに出会うことができます。では主イエスはどのような方なのでしょう？ルカ19章でイエスに出会ったザアカイという男のことが記されています。

ルカ19：1～10

1. それからイエスは、エリコに入って、町をお通りになった。
2. ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。
3. 彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見るができなかった。
4. それで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスが、そこを通りすぎようとしておられたからである。
5. イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ。急いで降りてきなさい。きょうは、あなたの家にとまることにしてあるから。」
6. ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。

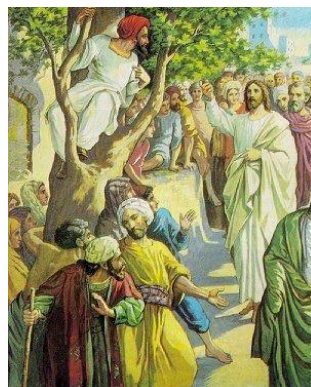
取税人ザアカイは、イエスを一目見たいと懸命でした。同じくイエスを見ようと多くの人達が集まり、町は大変な騒ぎです。ザアカイは何とかイエスを見ようと木に登り、その時、イエスが彼に声をかけられたのです。ザアカイはイエスが自分の名前を知っていたことに驚きます。主イエスはすべての人がどのような者であるかを知っておられます。各人の心もご存知なのです。イエスはさらにザアカイを驚かせます。主はザアカイに出会う前、すでに彼の家を訪れることを決めておられたのです。イエスが神の御子であることをザアカイは信じました。イエスはご自分を求める

人を喜んで受け入れ、その人と親しくなろうとされます。その人がどんな人であろうと、です。ザアカイは取税人でした・・・。

取税人はイスラエルを支配したローマ帝国の命令で税金を集める役割をしていました。取税人は取り立てた税の上前を撥ね私腹を肥やしており、人々は彼らを裏切り者の罪びととして忌み嫌っていました。そんな取税人のかしらであるザアカイにイエスは声をかけ、親しくされたのです。それを見た多くの人には不満に思いつぶやきました。「あのかたは罪びとのところについて客となられた」と。

しかしイエスはザアカイの心を見ておられたのです。ザアカイは人から忌み嫌われていること、自分の罪深いことを自覚して苦しんでいたのでしょう。エリコの町で最もイエスを求めていたのはザアカイであったことを主は知っておられ、彼に声をかけられました。嫌われ者の取税人ザアカイはイエスと出会い、変えられたのです。19章8節では「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人に施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」ザアカイは悔い改め、別人のようになりました。

イエスは「失われた人を捜して救うために来た」といわれています。そのことは今も変わりはありません。かつてのような形ではありませんが、だれでも求める者はイエスに会うことができます。昔から現在、そして未来に至るまで永遠におられる方が主イエスです。イエスを求める人には、どんな人であっても主は声をかけられます。そしてその人を苦しみから解放して救ってくださるのです。



取税人ザアカイ

キリストを信じた体験談 「病気を治す神様」 知恵

イエスキリストに出会ってから、30年ほどになりますが、この間イエスキリストは私や家族に素晴らしい祝福と奇跡を与えてくださいました。その一つをご紹介します。

私の家族は夫と二人の娘ですが、これはまだ娘たちが幼いころの話です。ある時、私たち家族は、とても厳しい試練の時を通りました。夫の病気です。結婚して2年ほどたったとき、統合失調症という精神病を発症し、それは強制的に入院させなくてはならないほど重症なものでした。この病気は一言でいうと妄想、幻覚、幻聴で通常の生活ができなくなるという病です。医者には「一生治りません。」と宣言されるし、主人の会社の上司からは退職を勧められるし、途方に暮れてしまいました。 どうしたらよいか全く分からず、とにかく主イエスに助けを求めて祈ることにしました。 聖書を見ると、キリストは数々の病人を癒しましたし、お弟子たちもキリスト昇天後に、祈りによって多くの病人を癒したことが、書かれています。また、「信じる者には次のようなしるしが伴う。・・・、病人に手を置けば治る。」(マルコ16; 18)とも書いてあります。ならば主人も治してほしい!

しかし、イエス・キリストの前に正直になって祈れば祈るほど、主人を直してくれると確信することはできませんでした。それで「主よ、ごめんなさい。どうしても確信が持てません。」と告白しました。すると心の中につぎのような言葉が響いてきたのです。「あなたに確信がなくても、治してあげますよ。あなたの主人を病院から退院させなさい。」同時に 不思議と心には平安が満ちて、大胆な行動ができるようになり、とにかく神

様に言われことに従おうと病院の先生や家族に大反対されても主人を退院させることにしました。

でも、当の主人は全く治らず、むしろ症状は進み、人間らしい反応、表情、会話が一切無くなってしまいました。話しかけても、眉一つ動かさないのです。2週間ほどして、ある教会を主人と二人で訪れ、手を置いて癒しを祈ってもらいました。その帰り道のこと、プラットホームで電車を待っていると春の心地よい風が頬をかすめ吹き抜けていきました。その瞬間です。

「主人はもう大丈夫！」と直感したのです。そして家にたどり着き玄関に出迎えた娘たちに、なんと主人は「お帰りのキスは〜？」と言葉をかけたではありませんか！これは、健康な頃いつも娘たちと交わっていた挨拶なのです。そうです。奇跡がおこったのです！その日を境に主人の統合失調症は治り、会社にも復帰し、普通の生活に戻りました。それから二十数年。今でも、夫として、父親として私たち家族を愛し養ってくれています。 本当に素晴らしい主イエス！ イエスキリストは、聖書に 書いてある通りの方です。この試練を通して、私たちが愛し、言葉をかけ、導き、病気を治し、あらゆる問題を解決して下さる主イエスを経験することができました。ハレルヤ！

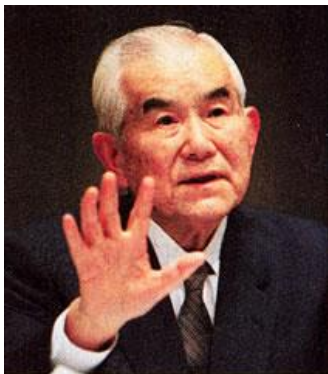


イエスは病をいやされた

聖書に関する有名人のこぼし：隅谷三喜男

(経済学者、東京大学名誉教授、東京女子大学学長)

※隅谷氏は、成田空港問題について、解決と和解に尽力されたことで知られています。



「旧約聖書も新約聖書も、神が歴史の中で働いてきたことを告白している書物です。」

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント!

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか? 少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか? このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか? ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

郵便番号:

住所:

名前:

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

見本

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com



★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>